

令和 2 年度 新田小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標 人間尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童像など）

仲よく	よく考える子ども …… 規範意識を持ち、自ら考え、進んで学べる子ども
	思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき、共に伸びようとする子ども
強く	体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども
たくましく	はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が丸となり、家庭・地域と信頼し合い、創意と活力にあふれた充実した教育活動の展開を通して、目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子どもたちが、「友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き」と言える学校
- 教職員が、互いに磨き合い、若い力が育つ「働きがいのある学校」
- 保護者にとって、「通わせて安心な学校」
- 地域住民にとって、「地域の誇りに思える学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 子どもたちが「友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き」と言える学校づくり

- ・すべての児童にとって居がいのある温かい雰囲気学級の経営と、不登校を未然に防ぐきめ細かな支援の充実
- 「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめを生まない指導の充実、及び道徳科を核とした人間尊重の精神の涵養
- ・自己肯定感・自己有用感を高める工夫と認め励ます教育の推進
- 「宇都宮モデル」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と、読書活動や家庭学習の充実を通じた読解力の育成
- 児童の地域行事への積極的な参画の促進や各種ボランティア活動の工夫と意識付け、郷土への愛情を育む学習の推進
- ・実態に即した「元気アップ教育」と食に関する指導の推進による、運動に親しもうとする態度や健康を管理する能力の育成

(2) 教職員が互いに磨き合い、若い力が育つ「働きがいのある学校」づくり

- ・県及び市のプランに即した「勤務時間を意識した働き方」及び「業務改善の取組」の推進
- ・暗黙知及び学年や世代を越えた指導技術の伝達・共有等、互いに刺激し合い磨き合って教師力を高める取組の推進
- ・適切な報連相による情報共有を基にした組織的な課題解決や協働による組織力の向上

(3) 保護者にとって、「通わせて安心な学校」づくり

- ・積極的な情報発信や、きめ細かで誠意のある対応
- ・適切な児童理解・観察を通してよさを認め、積極的に伝える教育の推進
- ・交通安全教室や避難訓練などを通して、児童自らが危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導の強化

(4) 地域住民にとって、「地域の誇りに思える学校」づくり

- ・学校支援ボランティアや下校ボランティアなど、学校を支えてくれる方々への感謝の心の育成
- ・学校だよりやHP等による積極的な情報発信
- 地域学校園や児童会の取組及び家庭との連携を生かした「あいさつ運動」を通じた規範意識を高める取組の推進

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、県及び市教育委員会の学校教育推進（学校教育スタンダード）の方向を踏まえて適切に編成する。
- (2) 学校教育目標や本年度の学校経営の方針及び努力点・具体策、並びに学校課題に即して、地域や学校の実態、児童の心身の発達の段階と特性を十分考慮し、教育課程編成のための視点を明確にして全職員の創意を生かした教育活動を実施し、人間として知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図る適切かつ、一貫性のある教育課程・各種年間指導計画を作成する。
- (3) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を教育課程全体の構造の中で明確に示す。
- (4) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ教育課程を編成する。
- (5) 市の「令和 2 年度指導の重点」を編成に反映させる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】	「地域協議会のテーマトークと児童の願いから生まれた合言葉『友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き』の浸透と、地域と共にある特色ある学校づくりの推進 ○異学年による交流活動の充実とあいさつ運動の推進 ・理科の授業研究を中心とした授業改善による、学びを楽しむ子どもの育成 ・読書活動の推進等を通じた読解力の育成 ・立腰教育を取り入れた、気力・体力を育む教育活動の推進 ・「集団の一員」意識を高めるボランティアプロジェクトの推進
【学 習 指 導】	「自ら学びに向かう児童の育成」 ～科学の目をもち対話しながら深め合う授業展開の工夫～ ○望ましい学習態度、習慣の定着 ・学力向上に向けての実効性のある対応 ○学ぶ意欲を高める授業づくり ・新しい分野への対応（理科・外国語活動・特別の教科 道徳・プログラミング教育）
【児 童 生 徒 指 導】	「自他への思いやりの心をもち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」 ○正しい言葉遣いと礼儀を意識した挨拶の定着 ・ボランティア精神の育成と自尊感情の向上 ・家庭・学校・地域等、社会に対する帰属意識の向上 ・互いに人権を尊重し合う意識の涵養
【健康（体力・保健・食・安全）】	「自らの健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」 ～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～ ・健康の保持増進 ・運動の日常化 ・食に関する指導の充実 ・判断力・行動力を意識した安全教育 ・家庭・地域との連携

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
目 指 す 児	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・興味関心を高めるための授業の導入や展開、指導法を工夫改善したり、認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして、児童の学習意欲を高める。 ・学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質の向上に努めるとともに、対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.5%で、数値指標を達成した。授業では根拠を基に自分の考えをまとめて友達に広めたり、友達の意見を聞いて考えを深めたりする学習活動を継続してきた。 また、保護者の肯定的回答率は、84.8%と昨年度より7ポイント下回った。 【次年度の方針】 児童の頑張りが見られたことについては、積極的に認めるとともに、進んで学習に取り組むための具体策を子ども達と共有して指導していく。また、各種たより等で保護者にも伝えるようにする。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	○本校及び地域学校園道徳教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ、各教科等や体験活動等と関連した道徳の授業を連携・工夫して実施することで、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。	B	【達成状況】 肯定的回答率は、教職員が97.1%、保護者が89%で、数値指標を達成している。昨年度よりも教職員は10ポイント、保護者は1ポイント上回った。 【次年度の方針】 温かい人間関係を育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。掲示物や帰りの会などを活用して、友達の良いところを認め合う機会を設定することで、互いのよさを認め合おうとする意識を高める。

童 の 姿	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・生活のきまり（「よい子の生活」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、78%で、数値指標を下回った。昨年度よりも3.8ポイント、また市の平均よりも8ポイント下回っており、課題が見られる。しかし、教職員、保護者、地域の肯定的回答率は昨年度を上回った。 【次年度の方針】 生活のきまりを再度見直し、継続して指導するとともに、児童による働きかけを重視して生活習慣の定着を図る。また、きまりやマナーに関する目標を設定し、帰りの会等で振り返る活動を日々継続することで、児童の規範意識を高めていく。
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率各 80%以上	○全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGSあいさつ運動」を継続していく。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・PTAや地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、88%で、数値指標を上回り、昨年度よりも1.6ポイント上回った。保護者の肯定的回答率は、78.9%で、数値指標を若干下回り、昨年度よりも2.5ポイント下回った。 【次年度の方針】 今年度と同様にあいさつ運動週間における振り返りを家庭で行うことで、家庭でも意識してあいさつができるよう促したり、児童自身があいさつ標語を作ることで、児童の意識を高めたりする。日々のあいさつ運動などを積極的にホームページやたより等に掲載し、保護者や地域の方々に児童の様子を知らせたり、家庭や自治会などにも、あいさつ運動の協力を依頼したりしながら、大人から率先垂範していく。
	A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・学級活動や各教科の授業、各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・児童が相互に認め合う場や、教職員が認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.5%で、数値指標を上回った。授業において、めあての設定や振り返りを行い、学習の成果を自分で記述・確認する機会を多く取り入れている。 【次年度の方針】 引き続き、「すくすくチャレンジカード」などを活用して検定等を実施するとともに、各教科の授業においては、粘り強く意欲的に取り組めるようなねらいの設定に努める。1日の終わりや学期の節目等に児童が相互に称賛し合う場を設けたり、「きらり賞」や「宮っ子心の教育表彰」で頑張りを認めたりすることにより自己肯定感を高めていく。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・児童が自分の健康に関心を持ち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、学級活動や体育科、学校行事と連携した保健指導や日常生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や下校指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 90.0%，教職員は 94.1%で、数値指標を達成した。 すくすくファイルや食育ファイルなどを活用し、児童が自分の健康に関心をもてるようにし、養護教諭や学校栄養士と担任が連携し、保健指導、食育指導を行った。 水泳の授業ができなかったため、夏休み前に水の事故の動画を視聴したり、避難訓練を行ったりして児童の意識の向上が図れた。 【次年度の方針】 引き続き、すくすくファイルや食育ファイルなどを活用しながら、養護教諭や学校栄養士と連携した指導を行う。 自ら主体的に判断し行動できる場面を設定した安全教育を推進していく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる」【A5 再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自分のよさに気付き夢や目標をもって取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観及び職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間等、各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする契機とする。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くの「人、もの、こと」に触れる場を設定することにより、それらのよさに気付き興味関心を高める機会とする。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 86.5%で数値指標を上回った。学級活動や総合的な学習の時間においてキャリア教育を年間指導計画に位置付け、教科との横断的な取組を行った。 【次年度の方針】 次年度も、キャリアパスポートを活用しながら学級活動との連携を図り、自分のよさに気付き、夢や目標をもてる児童の育成に努める。また、家庭や地域において夢を実現している人との交流活動などを可能な範囲で行い、夢の実現に向けて努力する意欲を高めるとともに、積極的に地域の人々や地域社会と関わろうとする態度を育成する。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・ALTを有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・外国語活動の教材研究をしたり、公開授業や授業研究会に参加したりすることにより、自己の授業向上に努める。	B 【達成状況】 児童の回答 83.2%で、数値指標を達成した。ALT との交流は増え、廊下などで会うと親しみを込めて挨拶をする児童が多い。 階段のステップに身近な英単語を掲示する等、環境整備にも力を入れた。 【次年度の方針】 今年度同様、教師もALTに積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行うようにする。また、外国語活動や外国語の授業のみならず、他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てる意識をもって授業を行うようにする。

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導の充実に努める。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 77%で、数値指標を下回った。第 3 学年社会科を中心に、他学年においても宇都宮学の導入により学ぶ機会は増えたが、校外学習など体験する機会は減ってしまった。 【次年度の方針】 宇都宮学の時間を中心に、伝統文化等を体験できる学習や、ICTを活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせる。また、道徳において郷土資料を活用し、郷土愛を育む。さらに、教師自身も宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう職員研修などに積極的に参加する。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童が適切にICT機器を活用し、効果的な学習ができるようにする。 ・市立図書館学校支援室等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時機を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。 ・学校図書館利用の時間や読書・読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 84.5%で、昨年度よりも 2.9 ポイント上がり、数値目標を達成した。今年度は、感染症予防対策のため、自由開館日が制限されている中で、学級の利用割当て時間に定期的に図書室や視聴覚室を活用してきた成果として数値も上がっている。 【次年度の方針】 各教科の年間指導計画等との関連を図りながら、効果的に児童 1 人 1 台の端末や ICT 機器を活用できるように取り組む。 本校の図書資料と合わせて、市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館と連携し、授業で有効に活用できる図書資料を準備するよう努める。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している」【A2 再掲】 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・読み聞かせや学習支援などボランティアなど高齢者に身近にお世話になっていることを意識させる。 ・各学習活動や行事等において、高齢者や地域の方と交流する機会を設け、感謝の気持ちや相手を思いやる心を育む。 ・各教科・領域や体験活動等と関連した道徳の授業を工夫して実施し、生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育む。 【A2 再掲】 ・特別の教科道徳及び人権教育年間指導計画に基づき、教育活動全体を通して計画的に道徳及び人権教育を実施する。 【A2 再掲】	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、84.7%で数値指標を上回っている。市の平均と比べると 5 ポイント下回った。教職員、保護者の肯定的回答率は、昨年度よりも上回った。 【次年度の方針】 読み聞かせや登下校、学習ボランティアなど、日常的に多くの高齢者にお世話になっていることを意識させたり、感謝の会等を活用し、感謝の気持ちをもって接したりすることができるようにしていく。総合的な学習の時間や国語の学習等で住みやすい環境について調べる活動を通して、高齢者のことを考えて生活していこうとする意識を高める。

目 指 す 学 校 の 姿	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」⇒児童の肯定的回答率80%以上	・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間等、環境教育に関わる一連の学習を再構築し、効果的な指導を行う。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分にできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。 ・過去の災害に学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断し行動することの大切さを、避難訓練等を通して繰り返し指導する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は80.8%で数値指標と同等であった。各教科との連携を図るとともに、第5学年の総合的な学習の時間に環境教育の単元を位置付けたことで、環境問題への関心が高まりつつある。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させるとともに、出前授業や関係機関の教育力を系統的に取り入れられるようにする。また、環境委員会の児童による環境問題や世界の動きについての啓発を行う活動を積極的に取り入れる。さらに、今後も計画的に避難訓練を実施し、災害から学ぶ機会を設けるとともに、自ら判断して行動する大切さを指導していく。
	B1 児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭学習の習慣を身に付けている。」⇒保護者の肯定的回答率80%以上	・家庭学習を習慣化させるため、「すすくカレンダー」を継続的に活用し、家庭との連携・協力を図る。 ・自主学習の手引きを作成したり、家庭学習のよい事例やノートを紹介したりして、自主学習への意欲を高めるようにする。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は73.5%で昨年度より2.2ポイント上回ったが、数値指標を下回った。 「すすくチャレンジカード」という週ごとに自分で考えたためあてに向かって努力する形のシートを活用している。教師が助言や励まし等の支援をしながら、振り返りまで取り組んでいる。 【次年度の方針】 引き続き「すすくチャレンジカード」を活用し、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるように支援していく。また、学年だよりの裏面などに自主学習の取り組み方や児童の頑張りを掲載し、保護者へ知らせるとともに児童の意欲付けを図る。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」⇒教職員の肯定的回答率80%以上	・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会を開いて対応を検討し、チームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目標を大きく上回った。これまで、特別な支援を必要とする児童について、担任が一人で抱え込むことなく、教職員間で共通理解を図り、組織的に対応できるように努めてきた。 【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、今後も全教職員で共通理解を図り、児童の実態に応じた支援策を、教職員で組織的に行うことができるように努める。必要に応じて、校内支援委員会を開き、専門機関とつながるなどして、役割分担しながらチームでの対応ができるようにする。

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は96.9%で数値指標を上回った。いじめや人権に対する授業や活動を通して、いじめが許されない行為であることを繰り返し指導してきた。地域住民のアンケートでは、昨年度より6ポイント上がり、肯定的な回答が得られた。一方で保護者アンケートにおいては、昨年度より3ポイント下回った。いじめの早期発見、即時対応、いじめ対策委員会の開催など、全職員体制でいじめ解決に努めることができ、いじめに対する教職員の姿勢は児童には伝わったが、保護者全体の理解までには至らなかった。 【次年度の方針】 学級活動や道徳科の授業の中で、いじめが許されない行為であることを繰り返し指導するとともに、児童会が主体となり、標語をつくったり、強調月間に校内放送で呼びかけたりするなど、児童が積極的に「いじめゼロ運動」を推進できるような児童集団の育成に努める。また、学校ホームページを通じて、活動を行っていることを保護者や地域に周知していく。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答率80%以上	・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U調査（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関との連携を図りながら、組織的に支援を行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は92%で、数値目標を大きく上回った。しかし、昨年度と比べると、1.2ポイント下がっている。また、保護者の肯定的回答率も、昨年度と比べると2.5ポイント下がっている。 【次年度の方針】 教育相談や学校生活アンケート、Q-U調査等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努める。また、要配慮児童についての情報共有を教職員で行うとともに、家庭との連携を図りながら、組織的な支援を行う。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	・児童が、様々な国や文化の違いやよさを知り、認め合い尊重して生活しようという意識を高める指導を行う。 ・外国人児童について全教職員で共通理解を図り、日頃から必要な配慮を行うとともに、ニーズに応じた支援を組織的に行う。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で、数値目標を大きく上回った。学年を中心に、外国人児童に対して皆で温かく認め合い、見守る雰囲気醸成に努めてきた結果と言える。 【次年度の方針】 全教職員で共通理解を図り、日々の生活において、必要な配慮と周囲の児童への働き掛けを継続して行っていく。また、文化の違いやよさを知り、互いに認め合える環境作りに努める。

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、言葉掛けや「かがやきカード」でプラスのメッセージを伝え合うなど、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・様々な教育活動に、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、体験を通して思いやりの心を育てる取組を推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、数値指標及び市平均を下回り 81.6%であった。また保護者の肯定的回答率は 84.8%で、市平均を下回った。一方、地域の肯定的回答率は、昨年の 92.9%から今年度 93.3%とわずかに増加した。 2 学期から新型コロナウイルス感染対策を十分にしながら、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を行ったり、温かい人間関係を育む学級・学年経営を心掛け指導・支援したりしているが、全ての児童の肯定感を高めるまでには至っていない。 【次年度の方針】 全児童対象の教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全員の児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。 これからも温かい人間関係を育む学級・学年経営を核に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。 更に、児童会活動や異学年交流等の内容を見直し、高学年児童のリーダーシップを発揮できる活動を増やしていく。
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答率90%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。 ・チームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。 ・個に応じた「朝の学習の時間」の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 93.6%で、数値指標を達成した。板書により児童の思考が整理できるよう促したり、ノート指導を強化したりしてきた。 振り返りの内容は、個人差が見られる。 TT や少人数、かがやき等のきめ細やかな指導が児童の意欲付けにつながっている。 「朝の学習の時間」は、コロナの影響を受け、モジュール授業など時数確保のため活用した。 【次年度の方針】 引き続き、「分かる・できる・楽しい授業」を目指して基礎・基本の確実な習得と、個に応じた発展的な課題について改善を図り、学力の向上を目指す。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率80%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、理解を共有して取り組めるようにする。 ・明るく和やかな雰囲気の中で信頼関係を築くことができるよう努め、情報交換や振り返りを通して改善を加えながら進めることで、一人一人が十分に力を発揮できるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 97.1%で、市平均を 0.9 ポイント上回った。職場での人間関係はよい雰囲気である。教職員と学校スタッフとの間でもこまめに打ち合わせや情報交換をしながら職務に当たっている。 【次年度の方針】 引き続き、教職員間でコミュニケーションを図りながら、全教職員で「チーム学校」体制で学校運営を行う。また、問題が起きたときは、報告・連絡・相談を徹底し、学校体制で対応を図る。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・本校の働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。 ・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、フォーカス&スクラップの考えに立ち、教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の実施方法の改善、業務のスリム化を行う。 ・学習情報システムやICTをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 76.5%で、昨年度から 15.2 ポイント上昇した。働き方改革の研修を行い、業務改善の目標や具体策を設定し、業務に取り組んでいる。しかしながら市平均からはまだ 8.6 ポイント下回っており、目指す業務環境には至っていない。 B 【次年度の方針】 児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直す。また、各種行事等の目的を明確にして実施方法等を見直し、業務のスリム化を目指す。それによって、教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるようにする。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	○小中 9 年間で貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ○WGS あいさつ運動や中学生の行事への参加などを積極的に実践し、地域の活性化を図る。 ・取組の様子や成果等を保護者や地域に積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 94%で、数値指標を達成した。 保護者・地域住民は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により「小中一貫・地域学校園」の取組が限られてはいたが、肯定的回答率は昨年より上回った。しかし、児童の肯定的回答率は、WGS あいさつ運動ができなかったため、昨年度より下回った。 B 【次年度の方針】 保護者や地域からの理解を得るため、各種たよりや学校ホームページでの発信に積極的に取り組み、小中一貫教育・地域学校園に対する関心の醸成に取り組む。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を掲示コーナーで紹介し、活動への理解を促す。	【達成状況】 保護者・地域住民の肯定的回答率は、82.8%・80%で、数値指標を下回った。 新型コロナウイルス感染症対策の影響により特色ある教育活動の実施回数は少なかった。 図書ボランティア、書写ボランティア、ミシンボランティア等の活用は、状況に応じて実施できた。 B 【次年度の方針】 より一層、家庭・地域等と連携した教育活動の充実に努めるとともに情報発信を積極的に行い、学校運営への理解を深めていく。また、学校支援ボランティア等の人材発掘にも取り組んでいく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。【A22 再掲】 ・交流学习やふれあい活動など、参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 【A22 再掲】 ・活動の内容を掲示コーナーで紹介し、活動への理解を促す。【A22 再掲】	【達成状況】 保護者・地域住民の肯定回答は、82.8%・80%で、数値指標を下回った。 新型コロナウイルス感染症対策の影響により家庭・地域・企業等との連携の実施回数は少なかった。 租税教室、薬物乱用防止教室、上下水道局出前授業は、状況に応じて実施した。 B 【次年度の方針】 より一層、家庭・地域等と連携した教育活動の充実に努めるとともに情報発信を積極的に行い、学校運営への理解を深めていく。また、学校支援ボランティア等の人材発掘にも取り組んでいく。

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%、保護者は 89.9%で、数値指標を達成した。 安全点検実施計画に基づき、滞りなく点検を実施し、危機管理マニュアルの整備と避難訓練を実施した。 保健委員会の児童によるポスターの掲示、教室換気の呼び掛け、機器を使った温度・湿度測定などの活動を行った。また、各教室へのアルコールの配付や感染症対策セットの活用により予防対策を行ったり、職員研修等で周知徹底を行ったりした。 授業参観では、感染症予防の対策を徹底した。 【次年度の方針】 引き続き、安全点検の実施や危機管理マニュアルの整備、避難訓練等を行うとともに、熱中症及び感染症予防のため、温湿度計や加湿器、サーキュレータなどを使って、適切な管理を行う。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童が適切に ICT 機器を活用し、効果的な学習ができるようにする。【A10 再掲】 ・市立図書館学校支援室等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、時機を得た調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。【A10 再掲】 ・読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。【A10 再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率は 84.5%で、昨年度よりも 2.9 ポイント上がり、数値目標を達成した。今年度は、感染症予防対策のため、自由開館日が制限されている中で、学級の利用割当て時間に定期的に図書室や視聴覚室を活用してきた成果として数値も上がった。 【次年度の方針】 各教科の年間指導計画等での関連を図りながら、効果的に児童 1 人 1 台の端末や ICT 機器を活用できるように取り組む。 本校の図書資料と合わせて、市立図書館学校支援室や地域学校の学校図書館と連携し、授業で有効に活用できる図書資料を準備するように努める。
本校の特色・課題等	B2 学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保（交通災害救急体制食物アレルギー等）のため危機管理に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート「学校は、家庭や地域と連携・協力して、児童の安全確保のため危機管理に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答率 90%以上	・児童の安全確保のため、家庭や地域及び関係機関と連携・協力して、未然防止及び緊急対応のための体制を整える。 ・危機管理マニュアルを定期的に点検・改善・共有し、緊急時の迅速かつ的確な対応に努める。 ・地震・火災、竜巻、不審者対応避難訓練及び保護者への引渡し訓練等を年間計画にバランスよく配置して実施し、家庭や地域に情報を発信する。 ・「こども 110 番の家」協力者の更新・整備を保護者や地域と連携・協力して行う。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 89.3%で、数値指標を下回ったが、昨年度よりは上回った。 児童の安全のために、保護者・地域に便りを配付したり、一斉メールで注意喚起をしたりしてきた。PTA 活動として、保護者が学年ごとに朝の見守り活動を担当し、児童の安全や危険箇所等を確認した。 【次年度の方針】 引き続き、児童の安全のために学校が取り組んでいる活動を保護者や地域住民に積極的に発信したり、地域の方から安全・安心に関わる情報を得たりして、共に児童のために連携、協力することで、よりよい関係を構築していく。

B3 児童は、読書の楽しさに気づき、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は読書の楽しさに気づき、進んで本を読んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク、読書週間での催し等、本にふれあい親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読（「家族読書」）の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 70.5%で、数値目標を下回った。授業等で学校図書館を毎週利用してきているが、自発的に読書そのものを楽しんでいるかについては、消極的な傾向がある。学校図書館の自由開館に制限があったことも影響していると思われる。 【次年度の方針】 新型コロナウイルス感染対策の制限がある中でも、児童と本をつなぎ、読書することの喜びや楽しさ、進んで本を読む意欲付けを図る取組を推進する。 本を手にするための場を増やす。（本校図書館の分館貸出し、公立図書館の学校支援室の有効利用、児童によるポップ作成で本の紹介等）
B4 児童は、異学年交流を通して、自主性や豊かな人間関係を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動などや幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。【A2 再掲】 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしていくことで、他の人のために役に立っているという意識（自己有用感）を高めるとともに、互いのよさを見つけ、協調して活動しようという態度を育てる。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、82.8%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 縦割り班共遊活動や縦割り清掃、農園活動など、児童が主体的に活動できるよう工夫しながら異学年交流を推進していく。上学年が下学年の学級で、学習の成果を発表したり、下学年が上学年にインタビューしたりする活動を推進する。また異学年交流活動では各学年の児童にそれぞれの役割を与え、責任をもって活動したり、互いに教え合ったりする機会を作る。これらの活動を通して、人の役に立つ喜びを実感させ自己有用感を高めるとともに、他を思いやる心を育てていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 29項目中18項目で、肯定的回答率が数値指標を上回った。
- ・ 目指す児童の姿の「**進んで学習**」「**健康や安全**」、目指す学校の姿の「**不登校を生まない学級経営**」「**分かる授業やきめ細かな指導**」で、保護者・地域・児童・教職員のうち該当する全ての対象から概ね高い結果が得られた。今後とも、本校・本地域のよさを生かし、協力・連携を深めながら教育活動を実施していきたい。
- ・ まだ課題は見られるものの、昨年度と比較して、大きく上回った項目も見られた。目指す児童の姿の「**宇都宮の良さ**」「**持続可能な社会**」、目指す学校の姿の「**教職員の勤務時間、業務の効率化**」で教職員の評価がそれぞれ、約20%、30%、15%上回った。課題解決に向けて、教職員が共通理解を図り、同一歩調で取り組んできたことが結果として表れた。今後とも、チームとして協力して学校運営に取り組んでいきたい。
- ・ 目指す児童の姿の「**きまりやマナー**」「**時と場に応じたあいさつ**」、本校の特色・課題である「**家庭学習の習慣**」「**進んで読書**」においても課題が見られた。今後、改善に向けて取り組んでいきたい。
- ・ 「**地域の教育力を生かした特色ある教育活動**」「**家庭・地域・企業等との連携・協力**」についても、学校での取組を保護者や地域に積極的に情報発信することや、相互理解の下、より一層の連携・協力を推進する取組が重要である。
- ・ 未来を担う子どもたちのよりよい成長のために、本校のもつ地域の特色やよさを最大限に生かしながら、学校を取り巻く様々な実情にしっかりと目を向け、よりよい教育活動の再構築を目指したい。

7 学校関係者評価

〈テーマ1〉「きまりやマナー」「あいさつ」

- ・ きまりやマナーを守ることについて、教職員の肯定的回答率が増加している。児童の努力を認め評価している姿勢が感じられる。児童の模範となる教職員、保護者が粘り強く指導や声掛けをしていくとよい。
- ・ あいさつについては、児童の肯定的回答率が高かった。それに対し、教職員、保護者、地域住民は低い。特に、学校外でのあいさつに改善の余地があると思う。地域住民として、大人の立場で協力していきたい。
- ・ あいさつは、どうしても個人差がある。大人が範を示し、進んであいさつができる児童を育てていきたい。

〈テーマ2〉「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」「家庭・地域・企業等との連携・協力」

- ・日頃から地域ボランティア等の活動が児童に理解されており感謝したい。新田小にとって、ボランティアの力は大きい。感謝の気持ちを育み、大人になってから優しい心をもって、同じように人のために働けるようになってほしい。
 - ・様々な方々との連携・協力があってこそその学校である。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために難しい部分も多かったと思う。次年度に期待したい。
 - ・活動の情報発信を強化・継続し、ボランティア協力者の拡大が課題である。
- 〈テーマ3〉「児童の安全確保・危機管理」**
- ・学校からの一斉メール配信における細やかな対応がよかった。
 - ・自治会を中心とした登下校の地域ボランティアやPTAの見守り活動への協力などに感謝したい。
 - ・登校時には、高学年の班長のリードで安全に歩行できているが、下校時は気のゆるみが見られる。また、放課後の自転車の乗り方にも注意が必要である。
 - ・教職員、保護者、地域住民共に高い肯定的回答率であり、取り組みの成果が感じられる。しかし、「安全確保・危機管理」には十分ということはなく、今後も学校・家庭・地域が連携して取り組んでいくことが大切である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

＜学校運営＞

- ・重点目標に「地域協議会のテーマトークと児童の願いから生まれた合言葉『友達大好き・勉強大好き・運動大好き・地域大好き』の浸透と、地域と共にある特色ある学校づくりの推進」を掲げ、異学年による交流活動の充実や理科の授業研究を中心とした授業改善、読書活動の推進、立腰教育を取り入れた教育活動、「集団の一員」意識を高めるボランティアプロジェクト等を、保護者や地域の協力の下、教職員が一丸となって推進してきた。次年度は、教育目標である「よく考える子ども」「思いやりのある子ども」「体力のある子ども」「はたらく子ども」の実現を目指し、引き続き、学校と家庭、地域が協働し一体となって取り組んでいくとともに、教職員が互いに磨き合う意識を高め、切磋琢磨する場の充実を図ることで、学校力を高めていく。

＜学習指導＞

- ・「自ら学びに向かう児童の育成～科学の目をもち対話しながら深め合う授業展開の工夫～」を重点目標に掲げ、学ぶ意欲を高める授業づくり、望ましい学習態度や習慣の定着、学力向上に向けての実効性のある対応、新しい分野への対応（理科・外国語活動・特別の教科 道徳・プログラミング教育）について研究を進めてきた。今後も同重点目標の下、今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、更に児童の実態に即した工夫改善を行うことにより、児童一人一人が学ぶことの本質的な楽しさを体感し、学びに向かう態度を身に付けられるよう、研究を進めていく。また、地域素材や地域人材、地域の教育力を生かして、児童が互いのよさを認め合い、共に学び合う授業の展開を追究していく。

＜児童生徒指導＞

- ・「自他への思いやりの心をもち、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」を目指して、正しい言葉遣いと礼儀を意識した挨拶の定着やボランティア精神の育成と自尊感情の向上、家庭・学校・地域等、社会に対する帰属意識の向上、互いに人権を尊重し合う意識の涵養等、家庭・地域・関係機関と連携し、基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成、望ましい集団づくりに向けたよりよい人間関係づくりを推進してきた。今後は、同重点目標の下、引き続き課題となるきまりやマナー、あいさつの定着に向けて、家庭や地域との連携を深めながら取り組んでいく。

＜健康（体力・保健・食・安全）＞

- ・「自らの健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」を重点目標に、生活習慣の改善を目指した取組を中心として、家庭・地域と連携し、健康の保持増進や運動の日常化、食に関する指導の充実、及び判断力・行動力を意識した安全教育について推進してきた。今後も、同重点目標に向かって、これまでの成果と児童の実態をもとに取組を更に充実させていく。児童が自らの命を守り健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう、更なる指導の工夫改善を行う。その中で、困難さへのチャレンジや苦手なことの克服等、自己肯定感やたくましい心につながる体験を重視していく。